

不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループ

日本小児外科学会

大植 孝治 兵庫医科大学 小児外科教授

日本眼科学会

柏井 聡 愛知淑徳大学健康医療科学部

日本産科婦人科学会

久具 宏司 東京都立墨東病院 産婦人科

日本先天異常学会・日本人類遺伝学会

小崎 健次郎 慶應義塾大学医学部臨床遺伝

日本小児科学会

古庄 知己 信州大学医学部遺伝学教授

日本脳神経外科学会

坂本 博昭 大阪市立総合医療センター

日本整形外科学会

瀬川 裕子 東京医科歯科大学医学部附属病院

日本形成外科学会

西本 聡 兵庫医科大学 形成外科教授

日本発生生物学会

丹羽 隆介 筑波大学 生存ダイナミクス研究

日本遺伝学会

梶屋 啓志 理化学研究所 バイオリソース

日本小児科学会

◎森内 浩幸 長崎大学生命医科学領域 (小児科学)

日本解剖学会

三木 崇範 香川大学医学部 神経機能形態学

日本精神神経学会

神庭 重信 九州大学名誉教授

日本医学教育学会

武田 裕子 順天堂大学大学院医学研究科

本委員会のミッション案

1. 「奇形」を含む医学用語の置換えに関するワーキンググループからの宿題
 - 1) 患者・家族が直接触れる機会の多い病名に関しては置換えを進める（表1）
 - 2) 置換えが望ましいが検討の余地があるものについて審議を続ける（表2）
 - 3) 「奇形」という用語を単に医療の現場だけではなく学問全体での置換えを行うべきか、そのロジックを組む（筋を通す）ための審議を続ける

2. 不適切語に関する医学用語の検討ワーキンググループへと発展した今後の方針
 - 1) 「奇形」に関わらず不適切と思われる医学用語を挙げ、検討する（表3）
 - 2) 医学教育の現場でどう対応するか
 - 3) 広く学問の分野で用いられている用語の場合は、他の学会・学術団体、さらに社会全体へどのように呼び掛けていくか

表1. 患者・家族への説明や各種届出で書き込む機会がある「病名」「疾患群名」

英語	日本語	改訂	備考	対応
Arnold-Chiari malformation	Arnold-Chiari奇形	Arnold-Chiari病 Arnold-Chiari症候群	Arnold-Chiari奇形の殆どがMRIの普及でChiari奇形に含まれるようになった。 国際的には Arnold-Chiari malformation か Arnold-Chiari syndrome かで議論	日本脳神経外科学会を核にしてさらに検討する。
Chiari malformation	Chiari奇形	Chiari病		
Ebstein anomaly	Ebstein奇形	Ebstein病	Ebstein症候群（遺伝性腎疾患）がある；小児慢性特定疾病では「エプスタイン病」	改訂の方向で進める。
Taussig-Bing anomaly	Taussig-Bing奇形	Taussig-Bing複合	元々 Taussig-Bing complex という別名称があるので、こちらを優先語とする	
anorectal anomaly/malformation	直腸肛門奇形 / 肛門直腸奇形	直腸肛門形成異常	日本小児外科学会	
peromelia	奇形肢症	ペロメリア	日本整形外科学会	
vertebral anomaly	奇形椎	先天性変形椎	日本整形外科学会	
congenital abnormality/anomaly/malformation	先天奇形	先天異常	難病情報センター、日本小児腎臓病学会	
congenital cardiovascular anomaly / congenital heart defect	先天性心(血管)奇形	先天性心(血管)疾患	日本小児循環器学会、日本循環器学会、日本成人先天性心疾患学会	
congenital anomalies of the kidney and urinary tract	先天性腎尿路奇形	先天性腎尿路異常	難病情報センター、日本小児腎臓病学会	
malformation syndrome	奇形症候群	先天異常症候群	難病情報センター	
multiple malformation syndrome	多発奇形症候群		難病情報センターや小児慢性では「染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群」	

表2. 置換えが望ましいが検討の余地がある用語

英語	日本語	問題点	備考	対応
vascular anomalies (vascular tumors, vascular malformation)	血管腫・血管奇形	<ul style="list-style-type: none"> 1) 医学的には「腫瘍」ではなく「奇形」のものも「血管腫」とされている 2) 多くのものは体表に現れる 3) 患者の7割は「奇形」という語に抵抗感ある 4) 内服治療可能となった疾患もある 	日本血管腫血管奇形学会	継続審議
teratoma (teratocarcinoma, teratoid tumor)	奇形腫（奇形肉腫、 類奇形腫）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 適切な日本語が見当たらない 2) 患者の状態を示す用語ではなく、摘出して治す病気である 	多くの学会が関与	
teratogen	催奇形物質	<ul style="list-style-type: none"> 「催奇物質」が生物学系では使われる かつて「胎児中毒因子」の提案もあった 	多くの学会が関与	

表3. 「奇形」以外に不適切と思われる医学用語

用語	置換え語	対応	
1. 学術的に定義が曖昧もしくは不正確な用語			
2. 患者・家族の尊厳を傷つける恐れのある用語			
1) 差別や侮蔑の意を含む用語	猿線 蒙古斑 反蒙古様眼裂 蒙古症（モンゴリズム）	ダウン症候群	要検討
2) 動物の名称を含む用語	牛眼 ネコ泣き症候群 鷺口瘡 兎唇 獣皮様母斑 くも（状）指 獅子鼻	小児緑内障、水眼症 5p欠失症候群 口腔カンジダ症 口唇裂	既に対応済み
3) 歴史上または小説などの登場人物の名称を用いた用語	ハプスブルク家の顎 ピックウィック症候群	（あまり使用されない） 肥満低換気症候群	要検討
4) それ自体に差別や侮蔑の意図はなくても、非常にきつい響きがある言葉	精神分裂病 痴呆症	統合失調症 認知症	既に対応済み
	障害 障害者		継続審議

3. 不適切な人名が付いた用語				
	1) ナチスとの関わりで糾弾されている医学者の名前が付いた用語	Asperger症候群		要検討（特に病名）
		Clara細胞		
		Hallervorden-Spatz 病/症候群		
		Reiter症候群		
		Wegener肉芽腫症		
4. 精神科領域 (ICD-11 Chapter 6) の用語				
	精神医学的に不適切	選択緘黙	場面緘黙	日本精神神経医学会で検討中
	disorderが「障害」とされている	例) パニック障害	例) パニック症	